

「おいしい。」の一言で

熊倉小学校 六年

今年の農業科では、ネギとニンジン、米を育てました。作物を作る上で、大切な事を農業科支援員さんが教えてくれました。ニンジンの種は、間を均一に空けてまくこと、ネギの白い部分は土をかけてかくすこと、ぼくたちにわかりやすく教えていねいに教えてくれました。農業のことについて熱心に教えてくれる農業科支援員さんの姿に、ぼくは、胸を打たれました。

祖父は、農家で、たくさん野菜を育てています。ぼくは、小さいころからそんな祖父の姿を見て、なぜ人のために熱心に野菜を育てているのか、すごく不思議でした。野菜の大きさや形、味にまでこだわって作るのはすごく大変だったと思います。祖父がどうしてそこまで熱心に、野菜を育てているのかがわかったのはイモに会の日でした。

イモに会では、ぼくたちが作ったネギとニンジンが使われました。そのほかにも、ほかの学年が作った野菜もたくさん入っていました。自分たちで作った野菜を入れたイモ汁をたくさんの人に食べてもらいました。

「このネギとニンジン、すごくおいしいね。」
と言われた時、自分が作った野菜をおいしく食べてもらえたことが、すごくうれしかったです。

祖父もおいしいと言われた時、こんな思いをしていたんだなあと思いました。多くの人の「おいしい。」のために熱心がんばる祖父が本当にかっこいいなと思いました。

ぼくは、まだまだ農業のことを知らないので、もっと農

業にふれたいと思いました。将来は、ぼくも祖父のように、家族や町の人など、多くの人の「おいしい。」のためにがんばる農家になりたいと思います。そして、祖父と一緒に農業をやってみたい気持ちが強くなりました。最後に、だれかのためにがんばることが本当に素晴らしいことだと改めて感じました。農業科で学んだことを、これからも大切にしていきたいです。